

# カトリック六甲教会 教会報

2007

7

No.427

## 7月の予定

		教会暦	教会行事
1	日	年間第13主日	14:00 東ブロック合同の聖体奉仕者の研修会 (神戸中央教会にて)
3	火	聖トマ使徒	
6	金		初金 7:00 10:00 ミサ
8	日	年間第14主日	10:15 小教区評議会 17:00 集会祭儀(海星病院)
11	水	聖ベネディクト修道院長	
14	土		14:30 教会学校 終業式
15	日	年間第15主日	10:15 壮年会・婦人会合同例会
16	月		10:00 神戸地区養成委員会の講演 (神戸中央教会にて)
19	木		14:00 ベタニアの集い
22	日	年間第16主日	9:00 ブックフェア 17:00 集会祭儀(海星病院)
23	月		11:00 ベビーとママの集い
25	水	聖ヤコブ使徒	
26	木	聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ	
28	土		10:00 侍者会
29	日	年間第17主日	
31	火	聖イグナチオ(ロヨラ)司祭	イエズス会創立者の記念日 (受付業務は午前中のみ)

## 永遠なる神よ！

今、目の前で読んでおられる『教会報』は第427号ですね。第二バチカン公会議後、信徒の役割が大切にされ、また家族・友人・知人への拡がりを願って、この教会報が誕生したと思われれます。教会そのものは1948年(昭和23年)12月に当地に移転し小教区として認可されて以来、来年で60周年を迎える訳ですが、「教会

報」は合併号や休刊の月もあったためか、計算すると約40年間になります。初版の第1号をお持ちの方は、額などに入れて家宝にされているかも知れません。しかし、現在の毎号毎号も孫や曾孫の時代になれば値が付けられない(?)程の貴重な遺産となり、主の栄光と人々の救いのために捧げた私たちの愛と信仰の業が末

永く受け継がれて行くことでしょう。

私個人は1970年2月発行の第17号教会報を後生大事に保管しています。と言うのは、会社を辞しイエズス会に入る直前、“司祭志願”という題で記事を依頼されたからです。その中で、長い間迷っていた司祭召命について、次のような想いを書いています。「神様はしつこい方であり、最後は人間が負ける。永遠への憧れと平安のうちに負けてしまう・・・」と。他方で、人間側の決断については、「如何なる人にも人生は1回限りでありながら、多くの可能性が与えられている。しかし、人間には永遠に通じるような決断と選択があっても良いのであり、また無くてはならないだろう」と。その後相次いで二人の兄と両親、義兄姉、親友など愛する方々を見送りましたが、その度に故人との絆は深まり、永遠への確信を抱くようになりました。同時に、人との出会いや別れも、喜びと苦しみの入り交じった人生全体も、人間には知り尽くせない“神秘”であると感じるようになりました。イエズス会に入って間もなく、或る邦人司祭がヒマラヤ山脈の麓にある障害児の施設に派遣されました。ネパールのイエズス会からの要請に自ら志願されたのですが、それから35年が経ちました。私は時折、この80歳を超えて今もネパールの人々を愛し子供たちの世話を続けている先輩会員を尊敬の念をもって思い出します。またこの春には、或るシスターに20年振りにお会いしました。明るくお元気

なシスターですが、開口一番「これからブラジルの農村に参ります」と。「え・・・！シスターのお歳で？（失礼！）言葉は大丈夫ですか？」「いいえ・・・心は若い積もりなので、私でも何かの役に立つそうですよ。」私たちは異口同音に、“次にお会い出来るとすれば天国ですね”と言ってお別れをしました。

ネパールで働く司祭もブラジルに派遣されたシスターも、この地上どこにいても神様が一緒にいて下さるので安心！という信仰を生きておられるのでしょうか。そして、永遠を確信しておられるのだと思います。「すべてのものは過ぎ去り、そして消えて行く。その過ぎ去り消え去って行くものの奥に在る永遠なるものこのことを静かに考えよう。」これは故武宮神父の辞世の言葉です。人間とは何、私とは何、目に見えるこの世界、この宇宙とは？頭でいくら考えても、分からないことばかりです。六甲教会で働くのと、ネパールやブラジルで働くのと一体どちらが幸せか？どちらが困難か？それも分かりません（多分、六甲のほうが・・・？）。ただ、どちらも永遠に通じていることだけは確かです。日々“永遠なるもの”に心を向けると、最近ベストセラーになった「鈍感力」（渡辺淳一著）以上の恵みが与えられるでしょう。鈍感力（イヤな事は忘れる、前向きに、のんびりと・・・等）も良さそうですが、永遠志向はそれにも勝って、神様につながっているという嬉しい信仰の実感なのです。 桜井彦孝神父

## 各 部 会 だ よ り

### 👉 婦人会

6/3(日)に行われました合同堅信式の際には、延べ80人のお手伝いをいただき、無事に終えることができました。これもひとえに婦人会の皆様のご協力の賜物と役員一同感謝しております。また、ケーキのご寄付を沢山いただきましたことにも、心より御礼申し上げます。今後も皆様のご協力を頂き、婦人会行事に取り組んで参りたいと思っております。宜しくお願い致します。

7/15(日) 壮年会・婦人会合同例会

婦人会例会は金曜日に行われておりますが、今回日曜日に、壮年会と合同で開催します。普段、例会に参加できない方々の参加を願っております。講演の後、懇親を深められますよう、軽い昼食(立食パーティー)を準備しております。どなた様も遠慮なくご参加下さい。より多くの方々のご参加をお待ちしております。詳細は下記の行事予定をご覧ください。

#### 【行事予定】

7/6(金) 初金 ミサ 10:00

7/15(日) 壮年会・婦人会合同例会

ミ サ: 9:00~

講演会: 10:15~

演 題: 『分かち合う生き方への招き』

講 師: 吉村信夫 氏

(六甲学院教諭、大阪教区生涯養成委員)

会 場: イグナチオホール

講演会終了後、懇親会(軽食付)有り。

### 👉 三日月会

<例会> 例会は休会致します。

<三日月会 喫茶>

7月1日(日) 9時ミサ後~13時

イグナチオホールにて

### 👉 青年会

<定例会>

7/8・22(日) 12:30~

場所: 第5会議室にて

内容: 聖書を読んで分かち合い等

7/22(日)12:15~ 清掃当番にあたっていますので、ご協力下さい。

### 👉 教会学校

7/7(土) 大そうじ

7/14(土) 終業式

7/21(土) キャンプ準備会

### 👉 社会活動部

7/6(金) ミサ後 社会活動部連絡会

今年度の活動等について!

各ボランティアグループの責任者の方はご参加をお願いします。

### 👉 地区会

<東灘5地区集会報告> 5/26(土) 六甲学院

聖霊降臨主日の前日、赤松神父様をお迎えし、六甲学院で野外ミサと集会をもちました。初めに神父様による野外ミサの中で、現在91才の神父様のお父様が老人ホームで多くの人に支えられて生活されていること、神様は人生の最後まで私達に係わって下さるので、生涯神に従順であるよう祈りましょうと言われました。

その後、新コーディネーターの大橋様と共に地区会の在り方について意見交換しました。最後に神父様のギター伴奏で5曲合唱し、素晴らしい五月晴れのもと、神様からの多くの恵みに感謝の1日でした。(中村)

## <お 知 ら せ>

### 【社会活動部より】

7 / 4 (水) 10 : 00 ~ 手芸の集い (第 1 ・ 2 会議室)

参加自由。お気軽にご参加下さい。

原則として第 3 水曜日

7 / 14 (土) 10 : 00 ~ 炊き出し (イグナチオお台所)

小野浜グランドにて配食や、おじさん達とのお話し相手だけでもOKです。

毎月第 2 土曜日

7 / 19 (木) 14 : 00 ~ ベタニアの集い (イグナチオホール)

奇数月第 3 木曜日

聖体拝領式と茶話会

7 / 27 (金) 14 : 00 ~ おにぎり作り (イグナチオお台所)

須磨方面夜回り支援

初心者歓迎！男女・年齢不問！ご都合の合う日時で結構です。  
ちょっと手の空いた時間を貸してください。  
みなさまのご協力お待ちしております。

手作りコーナー：7・8月はお休みです。9月より再開致します。  
ご協力お願いいたします。

### 【聖堂掃除当番】

7月 1日 (日) 5班

7月 7日 (土) 教会学校

7月 13日 (金) 西 2・3・4 (婦人会)

7月 22日 (日) 青年会

7月 29日 (日) 中高生会

### 囲碁・将棋同好会だより

去る6月9日、第10回大会を開きました。参加者は23名、優勝者は囲碁では浅沼さん、将棋では武田さんでした。約5時間、対局の雰囲気はピンとはりつめ、悲喜こもごもでしたが、終わってみると楽しい一日でした。同好会発足から5年有余、会員数も徐々に増え、囲碁は25名、将棋は7名となりました。毎週土曜の午後、ロヨラルームで練習をしています。ご興味のある方は、どうぞ一度のぞいてみて下さい。上位は三段、四段の方が居られます。(山田)

## おめでとうございます！

6月3日六甲教会聖堂で、神戸中央・住吉・六甲教会(東ブロック) / 三田教会(北ブロック)の合同堅信式が行われました。

松浦司教の司式のもと、大勢の方に祝福され、総勢64名の方々が堅信を受けられました。

6月3日、その日は堅信式がありましたが、僕は学校の行事の野外活動の3日目で奈良にいました。最初その日が重なるということにすごく悩みました。もし堅信を受けなければ2年後に延長だけど、野外活動3日目をクラスみんなで楽しめるということもありましたが、堅信を受けることにして6月3日の早朝に奈良から帰って来ました。堅信を受けた今は、少し神様に近づけた感じがします。

(中2 綿貫 岳海)

私自身が堅信を受けようと決意したのは、親父の死別が要因です。何か親の為にできる事はないかと真剣に考えた結果、まだ堅信を受けていなかったのでも、改めて受ける決意をしました。率直な所、まだ堅信を受けたという実感はありませんが、徐々に実感できるものだと思っています。

祝福して頂きました皆様、心から御礼申し上げます。有難うございました。(黒田 浩)

この前の堅信式は、とっても緊張したけど、結構嬉しかったです。みんながおめでとうと言ってくれるのが何よりも嬉しかったという事です。やっぱりこれからの自分に必要だなあと言う事で受けました。みんな受けるのだから、受けたいと言う事ではなく自分の意思で、決めました。これまでの勉強会いろんな神父様の話で、堅信式がどのくらい大事なのかをよくわかることができました。やはりこれからも、神様が常にいることを意識した生活ができたらいいなと思いました。

(菊地 勇介)

僕は堅信式を受けました。今でも堅信を受けたという実感がわかりません。でも僕は、教会の中では大人になったと思います。これからは、中高生会や聖書でもっと神様のことを学んで、信者として立派になっていきたいと思っています。

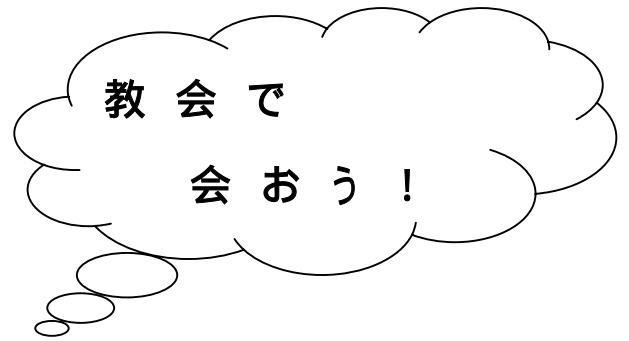
(中2 中村 雄悟)



# 2007 カトリック神戸地区大会

6月10日(日) 神戸海星女子学院

～ 出会いに感謝して信仰の喜びを伝えよう～



<ベトナム舞踊>

NGU BAI (マリア様に参拝する)

DANG HOA ME (マリア様に花をさしあげます)



<子供たちから司祭団への質問コーナー>



<日曜学校の子もたちによる歌>

世界に一つだけの花

ともだちになるために



<池長大司教・神戸地区司祭団司式によるミサ>





## みんなの広場

二つの言葉。

近ごろ聞かれなくなった言葉に、一つは「四終」、いまひとつは「射禱」がある。

「四終」とは四つの終りをいう。「死」「審判」「天国」「地獄」がそれ。このうち三つは、教会のなかでもタブーになっているように思われる。

人間がいくらタブーにしても、神様の定めを現実から葬り去ることはできない、わたしにもいつの時か必ず現実になる。それでもやっぱりタブーなのだろうか。

「射禱」とは、折りにふれて神様に語りかける、つまり祈りのことをいう。

わたしたちは神様に覆われて生きている。だから時々刻々、四六時中いつでも神様に語りかけることができる。タマネギを刻みながらでも、ゴーストアップのランプを見ながらでも。但しハンドルを握っているときはしないほうがいい、それほどの腕前は期待できないから。

祈りだからといって何も構えることはいらぬ。「彼女」に話しかけるのと同じではないか。人にうっかりものをいうと危ないことがあるが、神様なら遠慮はいらぬ。今更神様の前で格好を付けてみてもはじまらないだろう。

(三好)

---

### 「地球が危ない」

私は灘教会に35年お世話になり、娘の結婚式を機に六甲教会に籍を置かせて頂いています。

こちらに移って間もなく、桜井神父様の聖書研究会に参加し、内容は創世記から始まりました。「神は天地を創造された。」「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。」 - 略 - 「地を這うものすべてを支配させよう。」映画などで、それまでも接する機会はありましたが、この時「がん！」と頭を打たれたように、この言葉が心に強く、新鮮に響いてきました。私は、人間、そして宇宙のあらゆる万物は神によって創られたものと、信じます。

6月20日に娘が第二子を出産予定です。皆様にもお子様や、お孫、お曾孫がいらっしゃることでしょう。私は孫の誕生を喜んでいますが、50年後、100年後の地球は本当にどうなっているのでしょうか。私はやたらと恐怖をあおる為には想像もつかないようなことを書いているのではありません。今ならまだ地球温暖化をもっと効果的に防げるのではないのでしょうか。「北極のオゾン層に穴があいた。」といわれてもう20年以上になります。「オゾン層など、広い宇宙なのだから、空気が移動して、うまく埋めてくれるのでは・・・。」などと私は素人考えもいいたところでしたが、オゾン層は年々拡大しています。「地球の温暖化は過去一万年の間に例をみなかったもので、しかも地球的な物差しからすれば、極めて短期間に大変動が起ころうとしている。そして短期間に起る気候変動はとてつもなく大きな被害を世界中にもたらすと予想される。」(北野大博士、PHP研究所)と科学者がこう説いているのですから、子孫のために、地球全人類、世界中の政治家、国民一人一人が今もっと考えて、行動しなければならぬのではないのでしょうか。産業革命以後100年、確かに文明の利器といわれるものは続々と揃い、数え出したらきりがありません。その為のエネルギーでどんどん二酸化炭素が上層へ偶り、地球温暖化はますますです。

せっかく神様から与えられた地球を、神様が希まれるような地球にしなければと切に願っています。今のようなのんびりとした調子では・・・。この際、皆が自然の恐ろしさというものを身に染みて感じなければと思い、私も反省して、地球によりよい生活の仕方に変えて行きたいと思います。神様が希む、イエス様が希む平和な地球で永遠にあることを望みます。

(山本)

～図書室の雑誌のご案内をかねて～

「日本語文法の謎を解く」

金谷 武洋 著

ちくま新書 2003

この教会の図書室には、一般向けのキリスト教雑誌が数種類入っています。古い号であっても、たまたま手にとってじっくりみていると、意外(?)にとてもいい記事が2つも3つも見つかった、ということをおもよく経験します。個人で雑誌をおとりの方も多いでしょうし、人それぞれにひいきの雑誌もあることと思いますが、ふだん余り雑誌をご覧でない方には、たまに目を通してみられるといかがかと、ご案内させていただきます。

「カルメル」や「<sup>フネウマ</sup>風」という雑誌も最近図書室で購読し始めています。

私にとって、よかったなと思う最近の例は、「カトリック生活」誌5月号(32頁)の柳田敏洋神父(イエズス会)による記事でした。“日本の霊性をふだん日常の日本語の中に見出す”という趣旨の内容で、具体的な例を引いて説明されており、日本人としての誇りも私には覚えて、興味深いものがありました。(これは柳田師が標記金谷武洋氏の1,2冊の書物を読んでのご感想と、その書の紹介をなさっている記事であることをお断りします) (図書係 柴田)

# ミサ・典禮

2007年第1回講演会

主催：神戸地区養成委員会

テーマ：「聖体と信徒の生活」

- 現代社会に生きる信仰 -

講師： ダニエル・コリンズ神父(聖母女学院短期大学学長)

月日： 7月16日(月) 祝日「海の日」

時： 受付10時 開講10時30分

派遣のミサ15時～

場所： カトリック神戸中央教会

参加費： 無料(昼食付き)

切： 7月8日(日)

申し込み先：各小教区事務局

六甲教会の信徒の方は、事務所へ申し込んでください。



<p>教会報8月号の発行は、7月29日(日)です。  編集会議は7月22日(日)です。  記事原稿は、7月15日(日)正午までに信徒会館事務室  へご提出願います。 (広報部)</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	<p><b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b></p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21  電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6  発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父  編 集 広 報 部</p>
---	---